

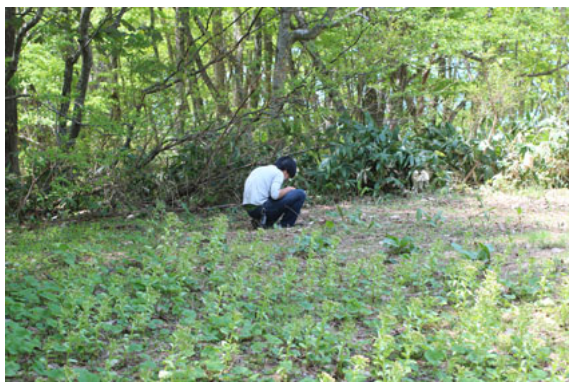
## 塘研究室現地調査報告 03

5月18日に裏磐梯にてチビコケカニムシ（遺伝子解析用試料）の採集調査を実施しました。これは兼子研究室の4年生、佐藤浩一君の材料採集調査で、塘が案内役として同行しました。

チビコケカニムシの集団遺伝学的研究を行っている佐藤君の裏磐梯の地理把握や採集場所の検討のため、檜原湖を一周しながら以下の各地で採集を実施しました：1) 1888年の磐梯山噴火の影響を受けた場所：休暇村裏磐梯敷地内の森林、檜原湖畔探勝路沿いの森林、2) 1888年の磐梯山噴火の影響を受けていない檜原湖北部の非森林的環境（草地など）、3) 1888年の磐梯山噴火の影響を受けた場所かつ非森林的環境（草地やスキー場など）、4) 檜原湖南部で1888年の磐梯山噴火の影響を受けていない場所（ブナ林など）、5) 自然による攪乱（1888年の磐梯山噴火）と人為的攪乱の両方を受けている場所（五色沼自然探勝路付近など）、6) 裏磐梯地域で檜原湖エリアからやや離れた場所（今回は小野川湖付近のブナ林を選びました）の6地点7ヶ所でした。

結果として、休暇村裏磐梯、檜原湖畔探勝路沿いの森林、裏磐梯スキー場付近の草地、五色沼自然探勝路から林内に入った場所（柳沼付近）でチビコケカニムシを得ることができました。特筆すべきは裏磐梯地域では初めて草地（裏磐梯スキー場付近のススキ草地）からチビコケカニムシが採集できたことです。一方、檜原湖南部のブナ林では1888年の磐梯山噴火の影響を受けた場所からは得られない *Mundochthonius* 属の一種が得られました。小野川湖付近のブナ林からもチビコケカニムシと思われるサンプルが複数得られましたが、*Parobisium* 属の若虫の可能性もあり、確認作業を進めています（チビコケカニムシは *Microbisium* 属）。

今後は今回得られた各サンプルの遺伝子解析を進め、県内外で得られたサンプルのデータとの比較を進めていく予定のようです。結果が楽しみです。



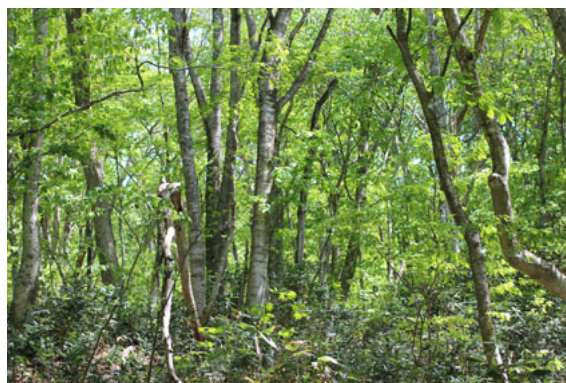
檜原湖北部（堂場山）の草地での採集



裏磐梯スキー場でのリター採取



檜原湖南部のブナ林でのリター採取



檜原湖南部のブナ林の林相